

アルテ・トーキョー

東京の秋冬を彩る新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO」 プログラムラインナップを発表

参加アーティストやパートナープログラムを公開
夜の浜離宮恩賜庭園を舞台にしたアートプロジェクトも実施

東京都および東京国際文化芸術祭実行委員会は、2026年10月10日（土）から12月31日（木）まで、新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）」を開催します。

ARTE TOKYOは、東京で催されるアート、演劇、音楽、イルミネーション、エンターテインメントなど多彩なプログラムを結び合わせ、ひとつひとつの輝きを都市全体の魅力として描き出すフェスティバルです。初開催となる2026年は、臨海エリア、日比谷・丸の内エリア、代々木・渋谷エリアをコアエリアとして、東京2020大会文化プログラムのリバイバルをはじめとする多数のアートやエンターテインメント企画を展開します。

開幕まで100日を迎えた本日、本芸術祭を彩るプログラムラインナップを発表いたします。多彩なアーティスト・クリエイター陣をはじめ、都市をステージとする現代サーカスプロジェクト、東京を代表する日本庭園である浜離宮恩賜庭園を舞台としたアートプロジェクトのほか、開催を共に盛り上げる都内各地の様々な催し「パートナープログラム」など、多様な企画の数々をご紹介します。

本日より公式WEBサイトでは、各プログラムや参加アーティスト等の情報を順次公開してまいります。
今後の展開にぜひご期待ください。

WEBサイト：<https://artetokyo.jp/>

東京国際文化芸術祭

現代アート、建築、メディアアートなど多様な領域の才能が参画 東京のまちなかをクリエイションの舞台に

ARTE TOKYOの中核をなす「ARTE コアプログラム」では、臨海、日比谷・丸の内、代々木・渋谷の3つのコアエリアを舞台に、それぞれの地域特性や都市空間を活かしたクリエイションを展開します。大巻伸嗣、鈴木康広、玉山拓郎、目 [mé]、永山祐子、藤本壮介、Rhizomatiksなど、現代美術、建築、メディアアートなど幅広い領域からアーティスト・クリエイターが参画、今後も順次発表してまいります。国際的に活躍する作家から次代を担う新鋭まで、多様な才能が東京のまちなかに新たな表現を立ち上げます。豊かな自然と高い都市機能、多様な歴史や文化が折り重なる都市・東京を舞台に、土地の記憶や地域の個性と呼応する作品やプロジェクトの展開を通じて、人々が見てきた風景や場所の魅力、都市に潜む可能性を引き出し、まちを巡りながら発見や出会いが連続する文化体験を創出します。

【臨海エリア】

東京湾の水辺や臨海副都心の都市空間を舞台に、建築、アート、テクノロジーが交差するプログラムを展開します。風や光、水辺環境といったこの場所ならではの要素を作品へと紡ぎ、臨海エリアならではの新たな体験を創出します。



参加アーティスト

- ・ 鈴木 康広
- ・ 湯浅良介 + GROUP
- ・ Rhizomatiks
- ・ 永山祐子
- ・ 齋藤精一

【日比谷・丸の内エリア】

東京を象徴する通りや広場、都市を形づくる風景を舞台に、人々の流れや都市空間の使われ方に新たな視点を投げかけます。見慣れた場所との関係をひらき、日常のなかに新たな発見や過ごし方を生み出していきます。



参加アーティスト

- ・ エキノモ
- ・ 笹原 花音
- ・ 鈴木 康広
- ・ 藤倉 麻子
- ・ 西澤 徹夫 + 森 純平
- ・ magma

【代々木・渋谷エリア】

多様なカルチャーや創造性が交差するまちなみを舞台に、新たな発見や遊びの連続を生み出します。高密度な都市空間のなかで、人々の好奇心や参加を促し、都市との新たな関わり方をひらいていきます。



参加アーティスト

- ・ ALTEMY
- ・ 東 弘一郎
- ・ 大巻 伸嗣
- ・ ガラージュ
- ・ 島田 正道
- ・ 鈴木 康広
- ・ 玉山 拓郎
- ・ 藤本 壮介
- ・ 目 [mé]

■ 都市をステージとする現代サーカスプロジェクト「ARTE TOKYO CIRCUS」



※写真はイメージです

東京のまちなかをステージとする新たな都市型パフォーマンスプログラム「ARTE TOKYO CIRCUS」を開催します。

臨海、日比谷・丸の内、代々木・渋谷の3つのコアエリアで、ARTE TOKYOで展開するアート作品とも呼応したサイトスペシフィックな現代サーカスや大道芸を上演します。

ディレクターには、日本における現代サーカスの第一人者であり、公共空間をアーティストに開放する東京都の「ハブアーティスト事業」でイベントプロデューサーも務める田中未知子氏を迎えました。都市空間とアートが交わることで生まれる驚きや発見を通じて、人々の創造性や新たな挑戦への意欲を喚起する文化体験を創出します。



田中未知子

現代サーカスディレクター

一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー代表理事

国際サーカス大道芸ネットワークCircostrada（本部：フランス）正規メンバー

■ 夜の浜離宮恩賜庭園を活かしたアートプロジェクト

ARTE TOKYOの初開催と浜離宮恩賜庭園の開園80周年を記念した特別企画を実施します。日本庭園の伝統美と都心高層ビルの対比という東京ならではの景観を有する浜離宮恩賜庭園（特別名勝・特別史跡）を舞台として、通常は開園していない夜間の庭園にアートの力で新たな景色を立ち上げ、庭園文化への関心や歴史への理解を深める機会とします。本プログラムの詳細は、公式WEBサイト等を通じて順次発表します。



開催期間 | 11月中旬～12月下旬のうち30日間程度で今後調整

開催時間 | 午後6時～午後9時半の範囲内で今後調整

※開催期間及び開催時間は、関係機関との調整を踏まえ、今後お知らせします。

・秋冬の東京を共に盛り上げる「パートナープログラム」発表

ARTE TOKYOでは、会期中に都内各地で開催される文化芸術プログラムとのつながりを広げるため、本芸術祭の趣旨に共感し、秋冬の東京を共に盛り上げる「パートナープログラム」を募集しました。

このたび、75件の参画プログラムを発表します。六本木アートナイト、アートウィーク東京、東京国際映画祭をはじめ、東京が有する多彩で厚みのある文化芸術活動が参画。今後も順次参画プログラムを発表していきます。

ARTE TOKYOでは、これらのプログラムを5つのジャンルで構成し一体的に発信することで、東京で同時期に展開される多様な文化芸術の営みを可視化します。都市全体がひとつのフェスティバルとして立ち現れる中で、これまで接点のなかった文化との出会いや新たな興味・関心を創出します。

パートナープログラムのラインナップは公式WEBサイトでご覧いただけます。（順次更新）

パートナープログラム一覧（50音順）

EXHIBITION | エキシビション

アート、デザイン、工芸、建築などの展示やインスタレーション

プログラム名	主催者
アートウィーク東京	(一社) コンテンポラリーアートプラットフォームほか
アール・ブリュット2026 巡回展「ソウゾウ・トレーニング！」	東京都、東京都渋谷公園通りギャラリー
alter. 2026, Tokyo	alter. 実行委員会
Un/Common Ground	小野寺匠吾建築設計事務所 × DENIZEN WORKS
SMBCアート・スクエア	SMBCグループ
Creative Futurists Showcase 2026	東京大学 × ソニーグループ 越境的未来共創社会連携講座
再生工芸展3	再生工芸プロジェクト
市中の山居-宵待ちの茶室[WA-AN 和庵] ver.3.0	サイト・リノベーション・ラボ
品川歴史館特別展「品川湾から東京港へ-未完の港湾都市-」	品川区立品川歴史館
喪失と再生のアートラボ 2026	(一社) ヴォイドアーツプロジェクト
TAAP Live 2026	東京都、アーツカウンシル東京
T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2026	(一社) TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY
デザイナートトーキョー 2026	DESIGNART TOKYO 実行委員会
TOKYO MIDTOWN AWARD 2026 EXHIBITION	東京ミッドタウン
TOKYO MIDTOWN DESIGN LIVE 2026	東京ミッドタウン
FUTURE VISION SUMMIT 2026	FUTURE VISION SUMMIT 2026実行委員会
ぼーだれす芸術祭	ぼーだれす芸術祭
MUT Art「大切な日常」	(同) MUT
森万里子:燦々	森美術館
ヨシロットン展 彼方との交信/BEYOND EARTH	森ビル(株)・(株)YAR・(株)博展
六本木アートナイト2026	東京都、アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会
1%-3 days for Kintsugi, Urushi Art & Forest (仮)	1% for Urushi Art & Forestプロジェクト企画委員会



アートウィーク東京



六本木アートナイト

PUBLIC ART | パブリックアート

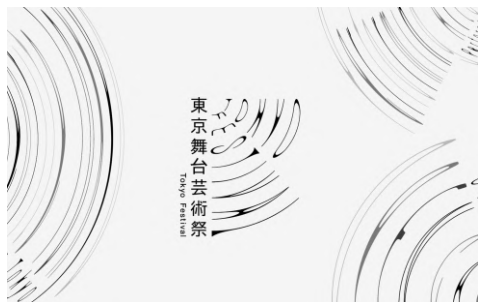
まちなかや公共空間で展開されるアート作品やインスタレーション

プログラム名	主催者
APK PUBLIC Vol.2	戸田建設（株）
SHIBUYA ART PUBLIC PLATFORM 2026	SHIBUYA ART PUBLIC PLATFORM 2026 実行委員会
平子雄一展(仮)	三井不動産（株）
ファーレ立川アートミュージアム・デー2026	ファーレ立川アート管理委員会
MUSASHINO ART RAILWAY FESTIVAL	武蔵野線アートライン・プロジェクト連携協議会
野外×アート×まちなか トロールの森2026	トロールの森実行委員会

MUSIC & PERFORMANCE | ミュージック&パフォーマンス

音楽、演劇、ダンスなどの舞台芸術

プログラム名	主催者
INSPIRE TOKYO 2026 WINTER	INSPIRE TOKYO 実行委員会
XR Magic Orchestra	(株) TYO
Shibuya StreetDance Week 2026	アーツカウンシル東京、Shibuya StreetDance Week 実行委員会
スターダンサーズ・バレエ団公演 THREE VISIONS	(公財) スターダンサーズ・バレエ団
世田谷アートタウン2026関連企画-ヴェッセル 宇宙の旅	(公財) せたがや文化財団
世田谷アートタウン2026『三茶de大道芸』	世田谷アートタウン実行委員会
前進座創立95周年記念公演『出雲の阿国』	(一社) 劇団前進座
東京舞台芸術祭2026	東京舞台芸術祭実行委員会
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL2026 スペシャルプログラム	サラダ音楽祭実行委員会
tone	アトラクティブ・エルダーズ、studio24、KKインターナショナル
日豪友好協力50周年記念、ミュージカル「BLACK BOX」	ルナハナシアターカンパニー
NIHONBASHI PUBLIC JAZZ	三井不動産（株）、（一社）日本橋室町エリアマネジメント、 THE A.I.R BUILDING
100クラ MUSIC DAYS	(一財) 100万人のクラシックライブ
ヘブンアーティストTOKYO 2026	東京都、アーツカウンシル東京
ベートーヴェンは凄い！ 第24回ベートーヴェン全交響曲連続演奏会 2026	(株) メイ・コーポレーション
北斎XR音絵巻-世界へひらく江戸東京の美-	アーリーミュージックエンタープライズ（株）
MINATOまちなかコンサート×ARTE TOKYO（仮）	港区
ミュージカル『101ワンオーワンダフルメシアンズ』	(株) 梅田芸術劇場
YAESU MUSIC STREET	(一社) 八重洲二丁目北地区エリアマネジメント



東京舞台芸術祭2026



世田谷アートタウン2026『三茶de大道芸』



ベートーヴェンは凄い！
第24回ベートーヴェン全交響曲連続演奏会 2026

MEDIA & ENTERTAINMENT | メディア&エンターテインメント

映画、映像、写真、メディアアート、IPコンテンツなどの上映や展示

プログラム名	主催者
品川国際映画祭	日鉄興和不動産（株）
「タレント・トーキョー2026」プライベート 修了生作品特別上映会	東京都、アーツカウンシル東京、タレント・トーキョー実行委員会
東京国際映画祭	（公財）ユニジャパン
TOKYO STORIES	（株）TYO
TOKYO Night & Light	東京都、東京プロジェクションマッピング実行委員会
第27回東京フィルメックス/TOKYO FILMeX 2026	（特非）東京フィルメックス
HIBIYA CINEMA FESTIVAL 2026	東京ミッドタウン日比谷、（一社）日比谷エリアマネジメント
PMA TOKYO 東京国際プロジェクションマッピングアワード Vol.11	PMA TOKYO 実行委員会
MOTO文化映画祭 2026 アジアパシフィック	MOTO-BUNKA



東京国際映画祭

CITY EXPERIENCE | 都市体験

イルミネーション、まち歩き、ワークショップ、マーケットなどの回遊・参加型体験

プログラム名	主催者
赤坂蚤の市 in ARK HILLS	森ビル（株）
大田黒公園 紅葉ライトアップ2026	荻窪三庭園 大田黒公園
けやき坂イルミネーション	森ビル（株）
Site Kodaira（サイト・コダイラ）	Art Kodaira 2026実行委員会
SHIBUYA GREEN NIGHT LINE（仮）	渋谷カルチャーディストリクト協議会
渋谷 冬のイルミネーション（仮）	渋谷カルチャーディストリクト協議会
つくる!あきがわアートストリーム2026	（一社）クリエイティブクラスター
TOKYO 海の森 HALLOWEEN 2026	（株）SEエンターテインメント
東京大茶会2026	東京都、アーツカウンシル東京
東京メガイルミ 2026-2027	東京都競馬（株）
日本橋イルミネーション2026	（一社）日本橋室町エリアマネジメント
ファンモアタイム新宿2026	ファンモアタイム新宿実行委員会
MIDTOWN CHRISTMAS 2026	東京ミッドタウン
MIDTOWN YAESU CHRISTMAS 2026	（一社）八重洲二丁目北地区エリアマネジメント
港区水辺謎解きラリー「港区と25のナゾ」	（一社）港区観光協会
目黒川オータムプロムナード	（一社）大崎エリアマネージメント
目黒川みんなのイルミネーション	目黒川みんなのイルミネーション実行委員会
YAU WEEKS	有楽町アートアーバニズム実行委員会
夜の皇居外苑（ライトアップ）	環境省

・開催概要 / 実施体制

イベント名称	ARTE TOKYO (アルテ・トーキョー)
開催期間	2026年10月10日(土) - 12月31日(木)
開催コアエリア	臨海エリア、日比谷・丸の内エリア、代々木・渋谷エリア
主催	東京都 東京国際文化芸術祭実行委員会(委員長 青柳 正規(東京大学名誉教授、アーツカウンシル東京機構長))
共催	公益財団法人東京都歴史文化財団
サポーター	全日本空輸株式会社 東京地下鉄株式会社 東京都交通局 ※五十音順



メディアサポーター	朝日新聞社	J-WAVE	ジャパントイムズ
	日本経済新聞社	日経BP	読売新聞社



※協賛・寄付は引き続き募集しております。詳細については、公式WEBサイトをご覧ください。

詳細：<https://artetokyo.jp/ja/news/kyousan/>



ARTEクリエイティブチーム

・統括プロデューサー	齋藤 精一 (パノラマティクス 主宰)
・統括セノグラファー	永山 祐子 (永山祐子建築設計 主宰)
・ARTEプログラムディレクター	青木 彬 (藝と 代表)
・ARTEプログラムディレクター	井口 皓太 (CEKAI 代表)
・ARTEプログラムディレクター	吉田山 (FLOATING ALPS 代表)
・ARTEセノグラファー	西澤 徹夫 (西澤徹夫建築事務所 主宰)
・ARTEセノグラファー	森 純平 (interrobang 代表)
・ARTEアートディレクター	木住野 彰悟 (6D 代表)
・ARTE TOKYO CIRCUSディレクター	田中未知子 (一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー代表理事)
・浜離宮アートプロジェクトプロデューサー	選定中

・公式WEBサイトに各プログラムやアーティストの情報を順次公開

本日7月2日(木)より、「ARTE TOKYO」の公式WEBサイトに情報を順次公開してまいります。参画が決定した「パートナープログラム」をはじめ、東京都が新たに手がけるアート作品から地域に根ざした催しまで、東京の多様な魅力を描き出す創造的な取り組みと、それらを生み出すアーティストの情報を続々と掲載予定です。今後の続報も楽しみにお待ちください。

公式WEBサイト：<https://artetokyo.jp/>



イベント名称

アルテ トーキョー
ARTE TOKYO

ARTEは、ラテン語の「ARS（技芸・才能）」に由来し、イタリア語・スペイン語で「芸術・アート」を意味します。

ARTE TOKYOではこの言葉を、アートを基軸に、Technology, Entertainment, Experience, Engagement, Ecosystem, Encounterなど、多様な領域が交わり合う概念として捉えています。

それらがつながり、重なり合うことで、都市に新たな体験が立ち上がる。文化芸術を通じて、人とまちの関係がひらかれ、都市の魅力が更新されていく。その試みが、東京という都市の中で動きはじめます。

メインロゴ



このロゴマークは、東京都の輪郭をモチーフに構成しています。

都市の形を一度切り取り、再構成することで生まれたラインは、東京という都市をひとつの「枠組み」として捉える視点を示しています。

ARTE TOKYOは、単一のイベントではなく、この枠組みの中で多様な出来事が立ち上がる「場」です。

さまざまな文化や表現が交差し、新たな関係性や価値が生まれていきます。その可能性を受け止める器として、包み込むような「括弧」の形で構成しました。

カラーは、歴史と未来、情熱と知性、テクノロジーと人、そしてARTEの由来であるアートとエンターテインメントといった、東京に共存する多様な要素を重ね合わせるように、2色のグラデーションで設計しています。

境界を設けないこの色のつながりは、異なる領域を横断しながら、東京の芸術・文化・エンターテインメントを大きく包み込んでいく、このイベントの姿そのものを表しています。

・ ARTE TOKYOの全体像

3つのプログラムを ARTE TOKYO として一体的にプロモーション

CORE AREA

臨海エリア

日比谷・丸の内エリア

代々木・渋谷エリア

実行委員会が主催

コア
プログラム

ARTE TOKYOを象徴する中核プログラム。公共空間や民間施設などまちなかでアート・エンターテインメント企画を多数展開

実行委員会が選定

ハイライト
プログラム
※

コアエリア内で実施される官民等団体主催によるプログラム
コアプログラムと企画連動を図りながらエリア内の体験や回遊の連続性をひろげる

国際美術展 TOKYO ATLAS

東京アクアシンフォニー

イルミネーションアイランドお台場 2026

臨海副都心イルミネーション

お台場レインボー花火

MEET YOUR ART FESTIVAL 2026

丸の内エリア・イルミネーション装飾

日比谷マジックタイムイルミネーション 2026

花と光のムーブメント 日比谷公園

KK線 アートイベント（仮称）

表参道イルミネーション2026

青の洞窟 SHIBUYA

代々木公園×夜間の魅力創出

都内各地

実行委員会が公募

パートナー
プログラム

コアエリアを含む都内各地で文化芸術祭と同時期に開催する官民等団体主催のプログラム
ARTE TOKYOを共に盛り上げ、広報連携やネットワーク形成等を通じて、相互誘客につなげる

ARTE TOKYOコアエリア／ハイライトプログラム

※本ページ記載のイベントは昨年度までの実績等に基づく名称・開催予定を含みます。今年度の開催については各主催団体の発表をもって正式な内容となります。

臨海エリア

東京港を借景に、レインボーブリッジや東京タワー、高層ビル群がまちの輝きを彩る、開放的な都市空間。エンターテインメントのコンテンツが集積する臨海副都心、ひとつの大きなプレイグラウンドにします。

2026年3月に運用を開始した「東京アクアシンフォニー」の噴水演出や、本芸術祭と同時期に開催される「国際美術展 TOKYO ATLAS」、臨海副都心の風物詩である「イルミネーションアイランドお台場」などと連動しながら、スケールを生かした、没入的な体験を広げます。

お台場海浜公園の水辺のきらめきと、臨海副都心の都市インフラが生み出すコントラストのなかで、光や水、音が重なりあい、時間の移ろいととも風景が変化。砂浜は自然のキャンパスとなり、人が過ごすことで風景の表情が変わっていく。多くの人が通過するブリッジは、いつもとは異なる姿へと転じ非日常の空間をさらに演出します。

(ハイライトプログラム)



【手塚伸次「母と娘の恋」2021
Yayoi Kusama: A Retrospective】(アビックス・パロ、ベリン、
F+O、2021) © 展示企画
© YAYOI KUSAMA, Courtesy of Ota Fine Arts
①国際美術展 TOKYO ATLAS



②東京アクアシンフォニー



③イルミネーションアイランド
お台場 2026



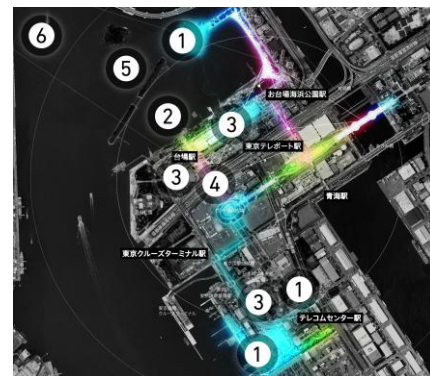
④臨海副都心イルミネーション
※開催エリア調整中
(上記地図はイメージ)



⑤お台場レインボー花火
©松本重成



⑥MEET YOUR ART
FESTIVAL 2026



※地理院地図をもとに加工して作成

日比谷・丸の内エリア

高層ビル群と緑が調和する、歴史ある都市空間。オフィスワーカーや買い物客、観劇客などが行き交うこのまちに、普段とは異なる景色を差し込み、新たな出会いと気づきを生み出します。

丸の内から有楽町、日比谷へと連なるストリートに広がる、イルミネーションの煌めき。日比谷公園やKK線（旧東京高速道路）で展開されるアートや文化芸術プログラムと響き合い、特別な体験がエリア全体へとじみ出ていきます。

この季節ならではの情景のなかで、通りや広場は、行き交う場から、集い、佇む場へと変わっていく。固定化された場所の役割がゆるやかにほぐれ、都市の新たな可能性がひらかれていきます。

まちに点在するアート作品がもたらす小さな違和感は、人の流れをゆるやかに変え、通りから通りへと回遊を生み出す。いつもと違う視点でまちを眺めることで、これまで気づかなかった都市の風景が見えてきます。

(ハイライトプログラム)



①丸の内エリア・イルミネーション装飾
※昨年の様子



②日比谷マジックタイム
イルミネーション2026



③花と光のムーブメント 日比谷公園



④KK線アートイベント（仮称）



※地理院地図をもとに加工して作成

代々木・渋谷エリア

若者文化やクリエイティブが交差するカルチャーの発信地。建物や人の密度が高く、情報や音が重なり合うこのまちでは、歩くことそのものが体験となります。

まちの各所に点在する場所をつなぎながら、人の流れに沿って新たな視点と体験が立ち上がっていく。にぎわいの中にまぎれ込むように、アートとの出会いが生まれます。

このエリアの冬の顔になっている渋谷公園通りや表参道のイルミネーションと呼応するように、代々木公園は夜を中心としたアート空間へと変化。周辺エリアを横断的に接続することで、都市空間そのものを一つの舞台として拡張します。

さらに、「旧子どもの城跡地」周辺をもうひとつの結節点に位置付け、都市に潜在するレイヤーを浮かび上がらせます。歩くほどに発見が重なっていく。まちを巡るたびに、出会いが連なっていきます。

(ハイライトプログラム)



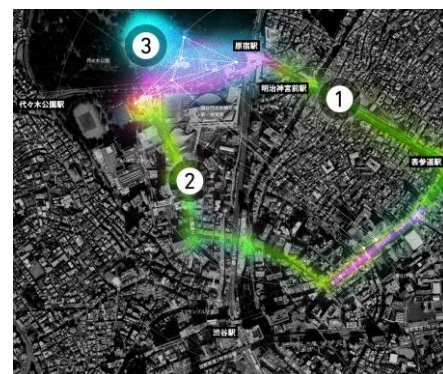
①表参道 イルミネーション 2026



②青の洞窟 SHIBUYA
※現在、2026年の開催は未定



③代代木公園×夜間の魅力創出



※地理院地図をもとに加工して作成

東京を、
むすぶ、
ひらく、
あそぶ。

ARTE TOKYO

文化や芸術には、
都市の景色を変える力がある。
東京初の国際文化芸術祭、
ARTE TOKYO。

それは、固定化した人と都市の関係を、
アートとエンターテインメントの力でときほぐすことで、
東京をつなぐプロジェクトです。

むすぼう、東京を。
人と場所をむすび、新しいつながりをつくりだそう。
これまでにないクリエイティビティを生み出そう。

ひらこう、東京を。
まちごとに閉じていた価値を引き出そう。
地域をひらき、東京という都市そのものをひらいてゆこう。

あそぼう、東京を。
つくる側、見る側、みんなが主人公になろう。
まちを、東京を、まるごと遊びつくそう。

東京を、むすんで、ひらいて、あそんで。
東京全体を会場にした文化芸術祭で、
誰も見たことのない東京が、はじまる。



東京を、
むすぶ、
ひらく、
あそぶ。



ARTE コアプログラム 参加アーティスト一覧

(50音順)

【臨海エリア】

GROUP

GROUP

GROUPは建築プロジェクトを通して、異なる専門性を持つ人々が仮設的かつ継続的に共同できる場の構築を目指し、設計・リサーチ・施工をする建築コレクティブ。

主な活動として、設計・施工「夢洲の庭」(大阪府、2025)、設計・運営「海老名芸術高速」(神奈川県、2021)、設計・施工「新宿ホワイトハウスの庭」(東京都、2021)、企画・編集「ノーツ 第一号 庭」(NOTES EDITION、2021)、設計「EASTEAST_TOKYO」(アートフェア会場構成、2023)、グループ展「Involvement / Rain / Water Passage」(金沢21世紀美術館DXP展、2023)、個展「手入れ / Repair」(WHITEHOUSE、2021)など。

<https://www.groupatelier.jp/>



齋藤 精一

建築デザインをコロンビア大学建築学科で学び、2006年、株式会社ライゾマティクス（現：株式会社アブストラクトエンジン）を設立。2020年、「CREATIVE ACTION」をテーマに、産官学を越境した地域デザインや都市開発、アートプロジェクトを手がけるデザインコレクティブ「パノラマティクス」を結成。2023-25年度 グッドデザイン賞審査委員長。2024年- Roof Park Project 共創プラットフォーム クリエイティブコンダクター。

<https://panoramatik.com/>



鈴木 康広

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、「ファスナーの船」、「まばたきの葉」、「空気の人」がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」(2014)、箱根 彫刻の森美術館「始まりの庭」(2017)など。近年は、「はじまりの果実」(十和田市現代美術館蔵)、「無限大をひらく」(BLUE FRONT SHIBAURA)をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

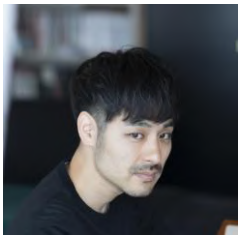
<https://www.mabataki.com/>



永山 祐子

青木淳建築計画事務所を経て2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に「豊島横尾館」「ドバイ国際博覧会日本館」「東急歌舞伎町タワー」、大阪・関西万博「ウーマンズ パビリオン」と「パナソニックグループパビリオン『ノモの国』」など。現在「Torch Tower」などの計画が進行中。著書に『建築から物語を紡ぐ』(グラフィック社)、『建築というきっかけ』(集英社新書)がある。

<https://www.yukonagayama.co.jp>



湯浅良介

1982年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。内藤廣建築設計事務所を経て、2019年にOffice Yuasaを主宰。2024年より多摩美術大学准教授。主な作品に「FLASH」（2021）、「となりはランデヴー」（2022）、「波」（2022）、「LIGHTS」（2024）など。主な著作に『HOUSEPLAYING No.01 VIDEO』（OFFICE YUASA）、『PATH』（盆地Edition）など。主な個展に「POLE STAR」（un、2022）、「BLINK」（same gallery、2023）、「TEMPO++」（CoAK、2024）など。主な受賞歴にSDレビュー2023槇賞、住宅建築賞2024入賞など。武蔵野美術大学、東京科学大学非常勤講師。

<https://www.yuasaryosuke.com/>

Rhizomatiks

Rhizomatiksは、変化し続ける環境の中で、表現がどのように生まれ、知覚され、経験されるのかを探る実践である。音、映像、空間、システムを通じて、人間と非人間、現実と生成、制御と偶然のあいだに生まれる経験をかたちにする。

<https://www.instagram.com/rhizomatiks/>

rhizomatiks

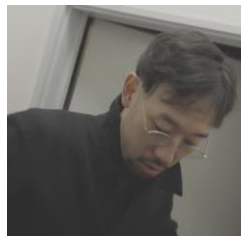
【日比谷・丸の内エリア】



エキソニモ

赤岩やえと千房けん輔により1996年に結成されたアーティスト・デュオ。インターネット黎明期から活動を展開。デジタルとアナログ、物理空間と情報空間を横断し、ネットワーク社会の変容を批評性とユーモアで表現し続けている。アルス・エレクトロニカ「ゴールデン・ニカ」（2006年）、文化庁芸術選奨（2021年）受賞。世界30都市以上に波及したイベント「インターネットヤミ市」の主催など、アートの枠組みを拡張する活動も行なっている。

<https://exonemo.com/>



笹原 花音

1997年東京生まれ。現在東京を拠点に活動するアーティスト。普段から目にする日常のオブジェクトをデフォルメし、機能性を消失させることによって、空間や生活環境における構成の再解釈をオーディエンスへ与える作品を制作している。

<https://kaorusasahara.com>



鈴木 康広 (再掲)

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、《ファスナーの船》、《まばたきの葉》、《空気の人》がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」（2014）、箱根 彫刻の森美術館「始まりの庭」（2017）など。近年は、《はじまりの果実》（十和田市現代美術館蔵）、《無限大をひらく》（BLUE FRONT SHIBAURA）をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

<https://www.mabataki.com/>



藤倉 麻子

1992年埼玉県生まれ、東京都在住。都市・郊外を横断するインフラと、それに付随する風景に着目し、主に3DCGアニメーションによる作品を制作。近年は、埋立地の物流のダイナミズムと、都市に現れる庭をテーマに空間表現を展開している。主な展覧会に「マシン・ラブ：ビデオゲーム、AIと現代アート」（森美術館、2025）、「第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」日本館（2025）など。

<https://www.afujikura.com/>



西澤 徹夫

1974年京都府生まれ／1998年東京藝術大学美術学部建築学科卒業／2000年同大学美術研究科建築専攻修士過程修了／2000-05年青木淳建築計画事務所／2007年西澤徹夫建築事務所／2023年～京都工芸繊維大学特任教授／2021年「京都市美術館」（共同設計：青木淳、『新建築』2005）で建築学会賞（作品）受賞、第62回（2020年度）毎日芸術賞受賞／2023年第74回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞

<https://tezzonishizawa.com/>



森 純平

東京藝術大学建築科大学院修了。建築から時間を考え、舞台美術、展示、まちづくり等、状況を生み出す現場に身を置き続ける。2013年松戸にてアーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」を設立し700組以上の滞在を支援。主なプロジェクトに「八戸市新美術館」共同設計、「有楽町アートアーバニズムYAU」など。

magma

杉山純と宮澤謙一によるアーティストユニット。

廃材や樹脂、電動器具などを組み合わせ創りだす独自の世界観で、作品制作にとどまらず家具やプロダクト、空間演出ディレクション・制作まで幅広く手がける。

どこか懐かしさを覚えるアナログ感とクレイジーな色彩が融合した作品群は、国内外から注目を集めている。

<https://www.instagram.com/magma.jp>



【代々木・渋谷エリア】



ALTEMY

ALTEMY（代表：建築家 津川恵理）は、場所の可能性を拡張する一級建築士事務所／建築デザインスタジオです。建築設計、ランドスケープ、道路、モビリティ、テキスタイル開発など多岐にわたる領域を一つの「アーキテクチャ」として設計し、人の身体や感性と環境を接続し、社会に新たな豊かさを生み出します。主な受賞歴は、国土交通省都市景観大賞特別賞、土木学会デザイン賞優秀賞、東京藝術大学エメラルド賞など。

<https://www.alt-emy.com/>



東 弘一郎

1998年 東京都生まれ。卓越した金属加工の技術をもって主に人がかかわることで動く立体作品を制作している。代表作は、自転車を材料にした廻転する不在や、2023年に韓国ACCで披露された無限車輪など。近年は、アジアを中心に海外でも積極的にグループ展に参加し注目を集めている。

<https://koichiro-azuma.com/>



大巻 伸嗣

1971年 岐阜県生まれ。美術作家。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

近年の主な展覧会に、「SPRING わきあがる鼓動」(ポーラ美術館,2026)、「Noor Riyadh 2025」(リヤド市内/サウジアラビア)、「Open the Box 2025: Bloom of Light」(大館當代美術館/香港)、「Interface of Being 真空のゆらぎ」(国立新美術館,2023)など。パフォーマンス作品やパブリックアートも世界各地で手がける。令和5年度（第74回）芸術選奨文部科学大臣新人賞。

<https://www.shinjiohmaki.net/index.html>



ガラージュ

建築・映像・演劇の専門領域をもつメンバーによって構成された建築集団。設立メンバーは小田切駿、瀬尾憲司、渡辺瑞帆。建築を「変化しつづける事象の一過程」と考え、空間にとどまらず時間も含めたデザイン活動を実践している。建築が利用される日常、ライフサイクル、歴史など、様々なスケールの時間を横断しながら思考し、映像、演劇、お祭り、フィールドワーク等を通じて建築表現の拡張を試みている。

<https://garagearchitects.com/>



島田 正道

島田正道は、鳥の羽ばたく姿や雨粒が波紋を広げる様子、風が稲穂に描く軌跡など、自然が生み出す儚い一瞬のきらめきを見つけて、光や音を用いた大型インスタレーションとして表現するアーティストです。作品は観客が驚きや喜びといった体験をできるインタラクティブ性を備えているのが特徴です。Amsterdam Light Festival、i Light Singaporeなど10カ国以上のライトフェスティバルで展示されています。

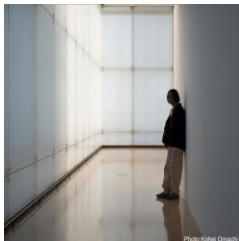
<https://www.instagram.com/masamichishimada/>



鈴木 康広 (再掲)

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、《ファスナーの船》、《まばたきの葉》、《空気の人》がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」（2014）、箱根 彫刻の森美術館「始まりの庭」（2017）など。近年は、《はじまりの果実》（十和田市現代美術館蔵）、《無限大をひらく》（BLUE FRONT SHIBAURA）をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

<https://www.mabataki.com/>



玉山 拓郎

1990年岐阜県生まれ。東京都在住。愛知県立芸術大学を経て、2015年に東京藝術大学大学院を修了。身近にあるイメージを参照して生み出された家具や日用品のようなオブジェクト、室内空間をモチーフに、鮮やかな照明や音響を組み合わせたインスタレーションを制作。最小限の介入によって空間を異化し、あるいは自然の理を強調することで、鑑賞者の身体感覚や知覚を揺さぶる。2025年、豊田市美術館にて個展「玉山拓郎：FLOOR」を開催。同展をはじめとするこれまでの活動が評価され、令和7年度（第76回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（美術部門）を受賞。

<https://www.instagram.com/takurotamayama>



藤本 壮介

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに従事。

<https://x.com/soufujimoto?s=20>



目 [mé]

アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。連携を活かしたチーム・クリエイションによる制作活動を展開。「いつも我々の眼前にある」ただの世界" を、あらためて経験するような作品を試行する。

<https://mouthplustwo.me/>